

わたしはこんなひとです。

- 海辺の図書館
- フカヌマビーチクリーン
- MULU (みちのく図書館員連合)
- 図書館総合展運営協力委員
- ビブリオバトル普及委員
- 聖和学園短期大学非常勤講師
- 株式会社 紀伊國屋書店



『海辺の図書館 物語』井上きみどりより
<https://kimidori-inoue.com/bookcafe/category/book/umibe/>

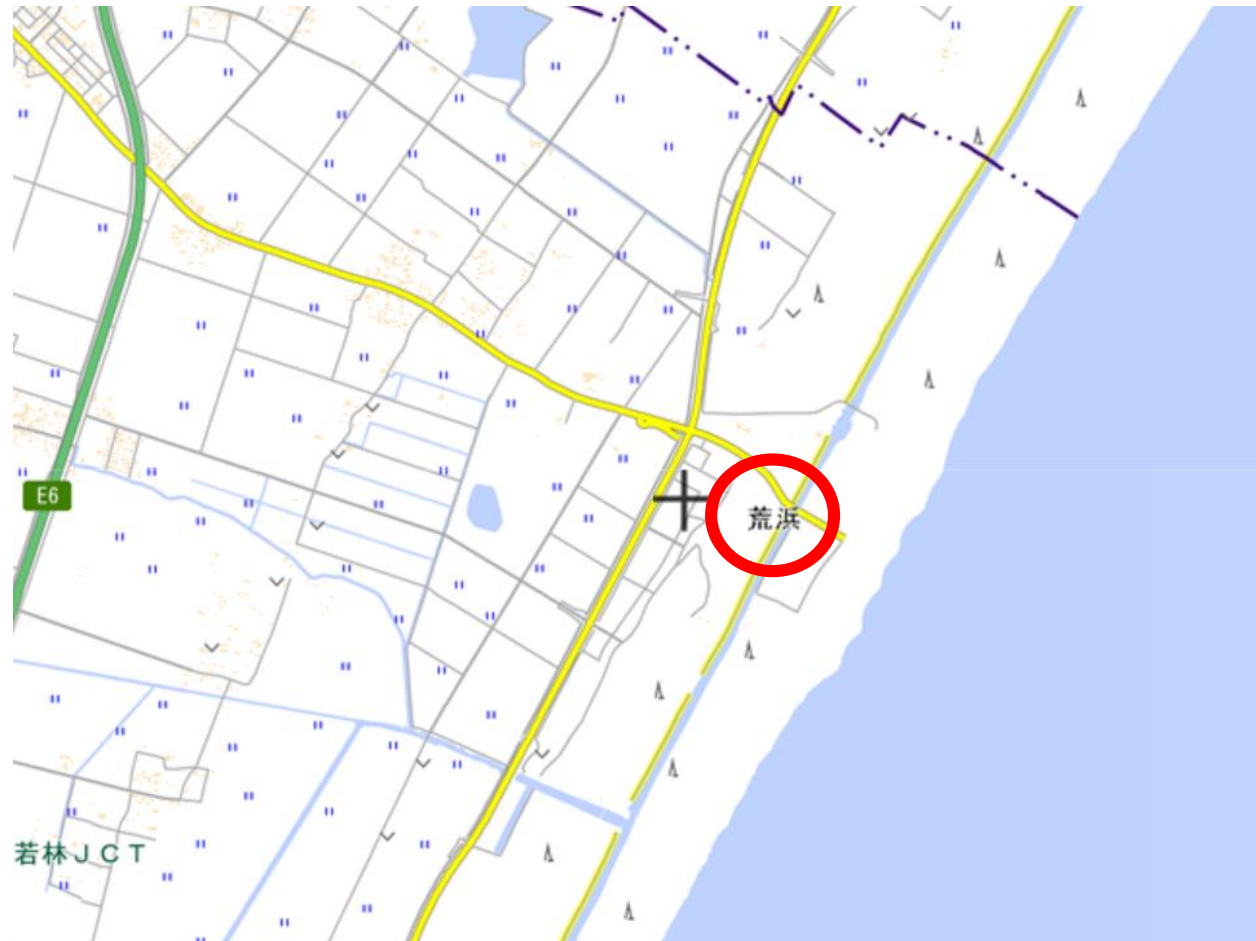
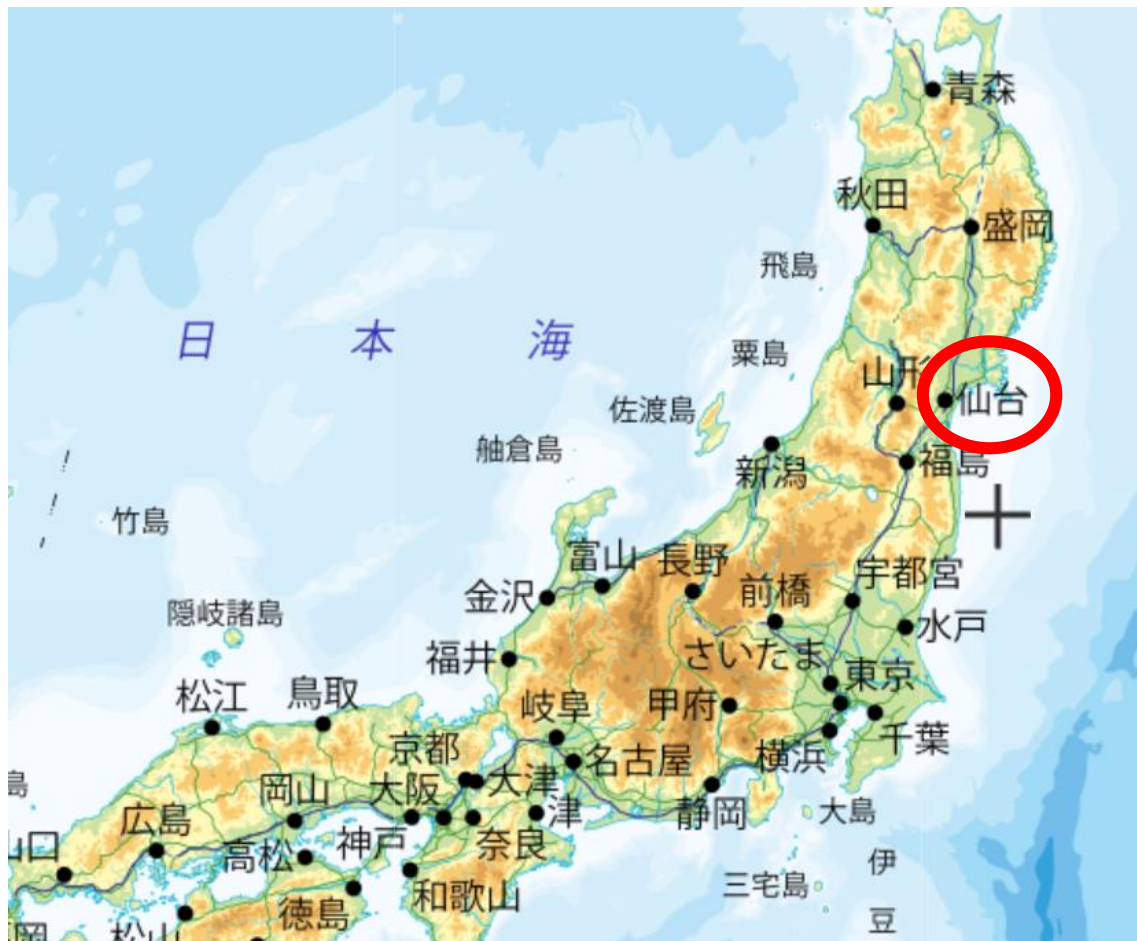
図書館体操から

海辺の図書館

～東日本大震災から12年間、何が残り何が失われつつあるのか～

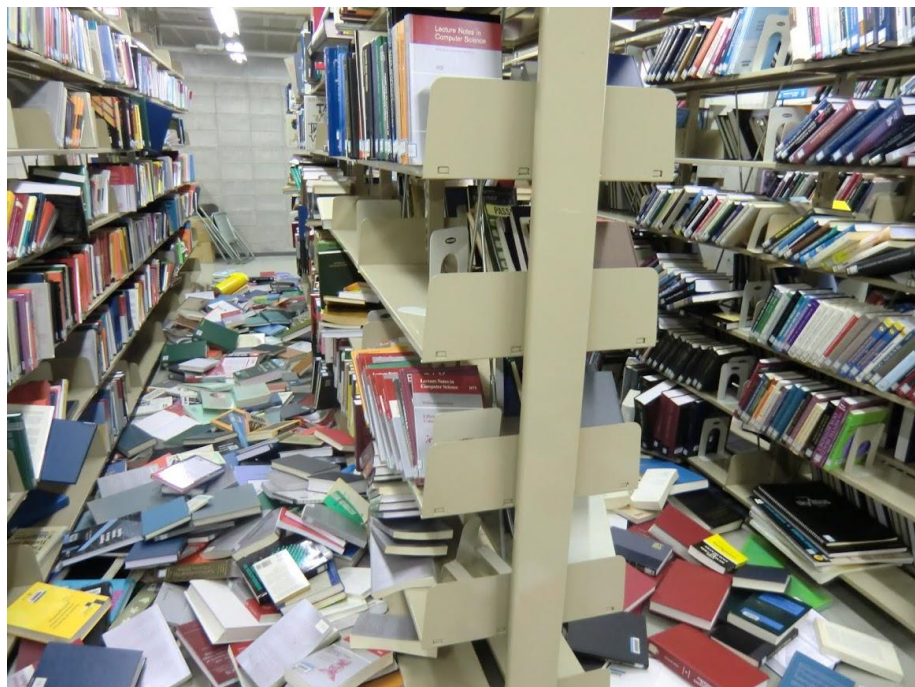


荒浜地域の概要（人口総数：2,593人 世帯数：786世帯 ※平成22年国勢調査）



2011年3月11日に発生した東日本大震災から1週間後の自宅





東北学院大学図書館 泉キャンパス図書館



おかげさまで、2011年7月7日を持ちまして、予定していた復旧作業のすべてを終えることができました。

この期間、たくさんの方々からのたくさんの温かいご支援をいただきました。ありがとうございました。(2011/7/31)

目次 [非表示]

- 1 被害状況(2022)
- 2 被害状況
 - 2.1 職員・利用者の被害
 - 2.2 施設の被害
 - 2.3 蔵書の被害
 - 2.4 その他の被害
- 3 救援状況
- 4 その他
- 5 情報源
 - 5.1 記入者
 - 5.2 元情報

被害状況(2022) [編集]

- 3月17日(木)-19日(土)は休館^[1]

被害状況 [編集]

蔵書点検作業中に被災、避難通路を確保し、スタッフを誘導。指定避難場所へ集合し、全員の安否を確認後、解散。(3/11)

職員・利用者の被害 [編集]

怪我人なし

施設の被害 [編集]

建物診断により立入許可(3/25より)施設の構成:1・2階開架閲覧室、地下1・2階閉架書庫①壁面の亀裂多数②トイレのタイル緑色が飛散③3/25現在、水道は復旧していません

安全な開館のために～東北の図書館員からのメッセージ～

目次 [非表示]

- 1 安全な開館のために～東北の図書館員からのメッセージ～
 - 1.1 «被災されたみなさまへ»
 - 1.2 «余震が続く中での開館の危険性»
 - 1.3 «周辺地域の図書館の方へ»
 - 1.4 «被災した図書館の方へ»
- 2 参考資料（東日本大震災での復旧事例）
- 3 履歴
- 4 原案作成者
- 5 このメッセージに賛同する個人・法人（賛同順）

安全な開館のために～東北の図書館員からのメッセージ～ [編集]

«被災されたみなさまへ» [編集]

このたびの熊本県をはじめとする、九州地方の広範囲にわたる地震により被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

2011年3月11日、私たちは東日本大震災を経験しました。余震が続く中、復旧作業に励まれるみなさまに、私たちが身をもって学んだこと、今、考えることをお伝えしたいと思っています。図書館の最大の使命は資料の収集・保存・提供であることは言うまでもありません。ですが、安心して図書館を利用してもらうには、また、安定的にサービスが提供できるのは、利便性です。同じ図書館職員として一日も早く開館し、完全なサービスを再開したい気持ちは痛いほどよくわかります。ただ、度重なる余震の中で復旧作業を続けることは非常に危険です。施設の耐震性よりもはるかに高い点を、図書館職員自身が理解すべきなのかもしれません。施設や書架、落下図書は時間をかければ必ずもとに戻ります。どうぞ立ち止まる勇気も持ってください。東日本大震災のときに私たちはみなさまの支援に助けられました。今度は私たちを頼ってください。どうか自分たちだけで背負い込まないでください。

みなさまが安心して過ごせる日々が来るように祈っています。

私たちのメッセージが館種や業種を問わず、一人でも多くの方に届きますように。

«余震が続く中での開館の危険性» [編集]

- 利用者や職員の身に危険が及ぶ可能性があります。
- 度重なる余震により、建物の耐久性は失われていきます。再開館は、建物の安全が保証されてからがよいでしょう。
- 余震により、棚に戻した本がもう一度落ちるかもしれません。

saveMLAK ニュースレター 第49号

「海辺の図書館」より

2014年からスタートした海辺の図書館は、地域全体を図書館に見立てた建物も本もない図書館です。人や自然環境との出会いを本を読むように体験できる居場所を目指しています。津波で住むことのできなくなった荒浜で、元住民や訪れる人たちがつながれるような催しや、震災前の暮らしや文化を伝えると同時に現在の荒浜を記録する取り組みを行っています。これから変化していく故郷をどのような形で残していくのか？そして、新たに荒浜を訪れた人たちとどのような未来を考えていくのか？まだまだやること、やれることはたくさんあるなあと感じています。

【庄子隆弘・海辺の図書館】



できること

自分にできることを、自分のできる範囲で、みなさんと一緒に、がんばりたいです。

【渡辺ゆきの・kumori】

図書館海援隊フォーラム2017

2017年1月21日、熊本学園大学附属図書館にて、ビジネス支援図書館推進協議会と図書館海援隊の共催で「図書館海援隊フォーラム2017」が開催され、約60名が参加しました。

saveMLAKメンバーで図書館海援隊長でもある神代浩が基調講演でsaveMLAKの活動を紹介したほか、同じくメンバーの熊本学園大学・山田美幸さんから、熊本地震により被害を受けた図書館の現状に関する報告がありました。

また、宮城県立図書館で東日本大震災後の東北地方の図書館復興に尽力された宮城県教育庁の熊谷慎一郎さんと鳥取西部地震を経験された鳥取県立図書館の小林隆志さんも加わり、災害が起こる前、あるいは起こった後の復旧・復興段階で図書館は何ができるか、何をすべきなのか、活発な議論が展開されました。

九州各地にとどまらず、関東や関西からも参加者がありました。ご来場いただいたみなさま、フォーラムの開催にご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

【神代浩】



会場となった「熊本学園大学附属図書館」(神代撮影)



saveMLAK ニュースレター 第59号

saveMLAK 報告会 2019

日時：2019年6月23日(日) 14:00~16:30

会場：名取市増田公民館

プログラム：

14:00~14:45

・第100回 saveMLAK MeetUp

15:00~16:30

・特別報告

柴崎悦子さん(名取市図書館・館長)

「名取市図書館の震災からの復興と今」

・活動振り返り

荒浜・名取を往く

—— saveMLAK 年次報告会 2019 に参加して

2012年より毎年6月に開催している saveMLAK 年次報告会。例年東京や大阪などを skype で繋ぎ複数会場でもやりとりしながら、今までの活動を振り返りまた今後の活動への提言の場としているのですが、今年はその内容に加え、昨年2018年12月に晴れて移転オープンした名取市図書館(宮城県名取市)の館長、柴崎悦子さんにご講演いただくというスペシャルな内容でした。柴崎さんに講演をお引き受けいただき、直接講演をお聞きしたい！と名取へ東

(<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20190623>)

当日の年次報告会の様子と、その前日に訪ねた仙台市荒浜の旧荒浜小学校、海辺の図書館について時系列にて報告いたします。

〇6/22(土)

・旧荒浜小学校~海辺の図書館、深沼海水浴場

福岡・仙台空港(2時間)、仙台空港・仙台駅(約25分)、仙台駅より地下鉄東西線にて荒井駅下車(約14分)、荒井駅よりバスにて旧荒浜小学校(約12分)。仙台駅からなら30分もかからないアクセスのよい場所に荒浜地区があります。訪れた日は、天気予報は曇り一時雨ながら、雲が流れて空が広がり、風が心地よい1日でした。東北も宮城県も初めて訪問する私を地元の庄子智香子さん(旧荒浜小学校嘱託職員/海辺の図書館・庄子隆弘さんのお母様)が出迎えてくださいました。荒浜小の歴史、地震当日のこと、その後のこと。映像や資料で拝見したこと、その場に足を運んで実感すること。当時の景色と、今8年経過した目の前の景色。荒浜にお住まいであった、ご自身も荒浜小に通われていたという庄子さんのあたたかい語り口に荒浜のよさ、そしてここで起こったことについてあらためて理解したように思います。



東北学院大学図書館 泉キャンパス図書館



おかげさまで、2011年7月7日を持ちまして、予定していた復旧作業のすべてを終えることができました。

この期間、たくさんの方々からのたくさんの温かいご支援をいただきました。ありがとうございました。(2011/7/31)

目次 [非表示]

- 1 被害状況(2022)
- 2 被害状況
 - 2.1 職員・利用者の被害
 - 2.2 施設の被害
 - 2.3 蔵書の被害
 - 2.4 その他の被害
- 3 救援状況
- 4 その他
- 5 情報源
 - 5.1 記入者
 - 5.2 元情報

被害状況(2022) [編集]

- 3月17日(木)-19日(土)は休館^[1]

被害状況 [編集]

蔵書点検作業中に被災、避難通路を確保し、スタッフを誘導。指定避難場所へ集合し、全員の安否を確認後、解散。(3/11)

職員・利用者の被害 [編集]

怪我人なし

施設の被害 [編集]

建物診断により立入許可(3/25より)施設の構成:1・2階開架閲覧室、地下1・2階閉架書庫①壁面の亀裂多数②トイレのタイル緑色が飛散③3/25現在、水道は復旧していません



図書館体操第一【公開ver 01】



Takahiro Shoji
チャンネル登録者数 35人

アナリティクス

動画の編集

👍 191



➦ 共有

⬇️ オフライン

✂️ クリップ



4.7万 回視聴 10 年前

図書館体操とは、みちのく図書館員連合（略称：MULU：ムル）の庄子（@yunbo_7）が考案した、図書館員のための体操です。

図書館員の日常業務を体操にすると共に、2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた東北の図書館員として、記憶が風化しないように、また防災意識を体操を繰り返すことで持ち続けるという思いを込めています。もっと見る



⑤地震に備えて大声を出す練習

荒浜の
人たちが
バラバラに
なつていく中

シヨージは
毎週のように
ここに来て
ポーツとしたり
本を読んだり
していて





2



海辺の図書館

海辺の図書館は、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県仙台市荒浜にある本も建物もない図書館です。これまで海辺で営まれてきた文化を、かけがいのないものとして後世へ残すと共に、これからの地域を楽しく考え、多様な取り組みを通して、次への一步を踏み出せるような場所を目指しています。

ここまでのまとめ

1. 東日本大震災の津波によって、自宅が流された。
2. 図書館好きとして、復旧作業中に「図書館体操」を思いつく。
3. 故郷でできることを模索している中で生まれた「海辺の図書館」。



海辺の図書館の目標

海辺の図書館の目標 ① 失われてしまった地域の歴史、文化の記録



海岸公園センターハウスと連携、高校生向けに海水からの塩づくりをレクチャー

海辺の図書館の目標 ② 地域の伝統を継承するイベント等の実施



海辺に生息するスナガニの捕り方や生活との関わりを伝える

海辺の図書館の目標 ③ 元住民や来訪者が地域と繋がる場づくり



老若男女、誰もが気軽に参加できる海岸清掃「深沼ビーチクリーン」

海辺の図書館の取り組み

海辺の写真展



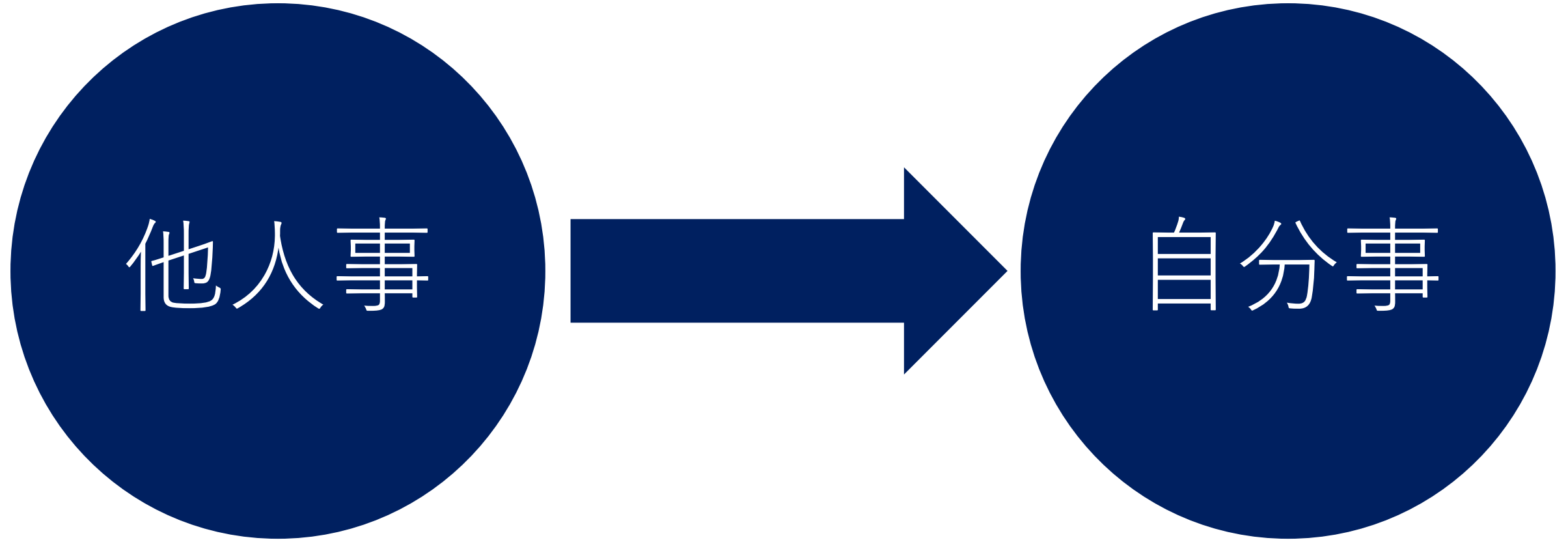
2023年3月11日 海辺の屋台図書館





対日理解促進交流プログラム



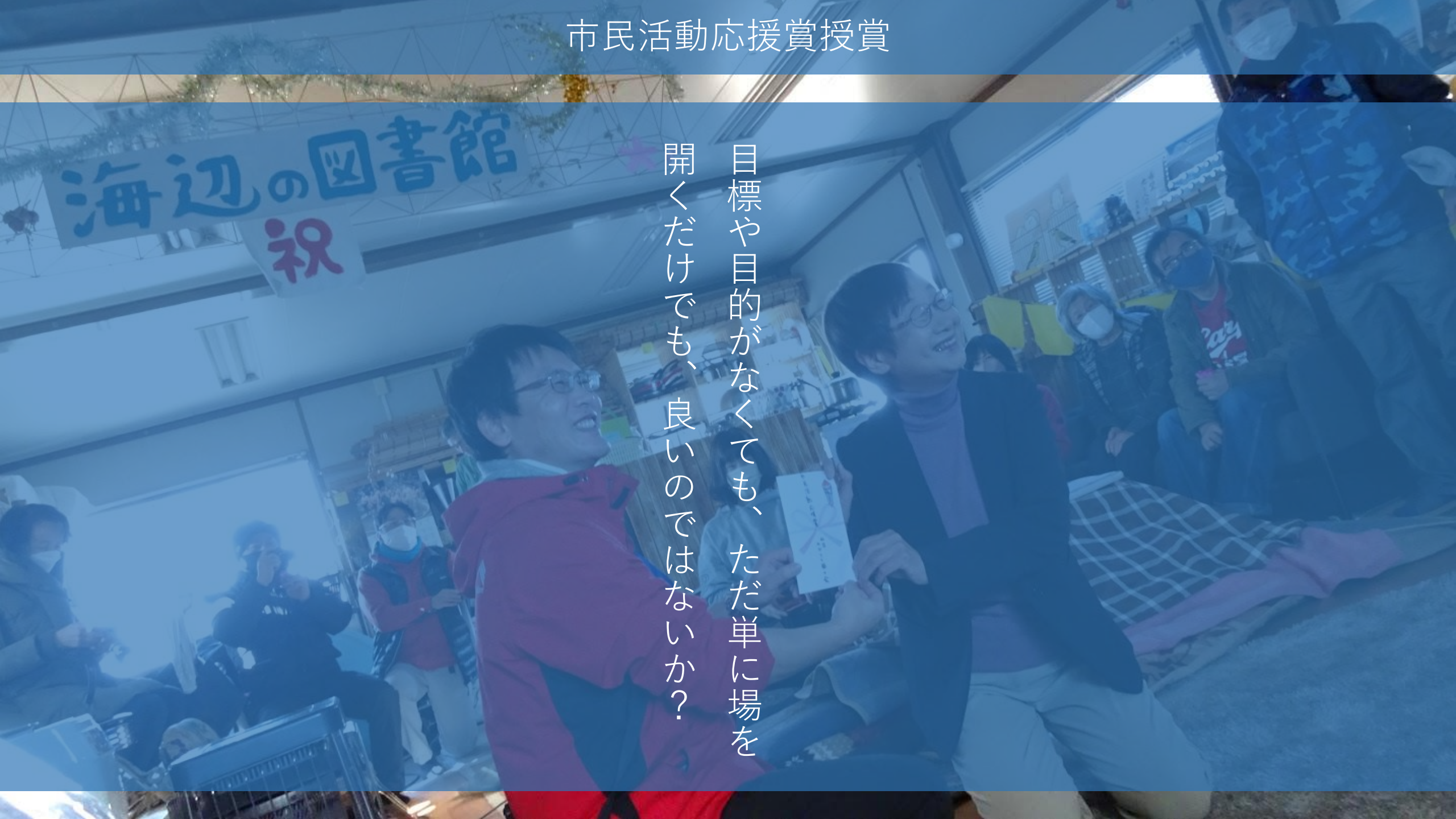


被災地支援として荒浜を訪れたが、庄子より「ここで、何かやりたいことないですか？」と問いかけられたことによる意識の変化。

最終章 | 何が残り、何が失われつつあるのか

市民活動応援賞授賞

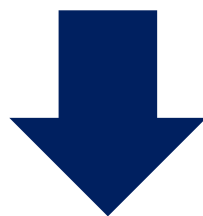
目標や目的がなくても、ただ単に場を
開くだけでも、良いのではないか？



失われたのは非日常
残ったのは…

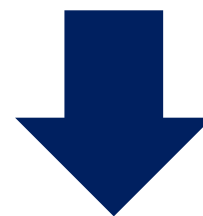


継続
伝え続けること

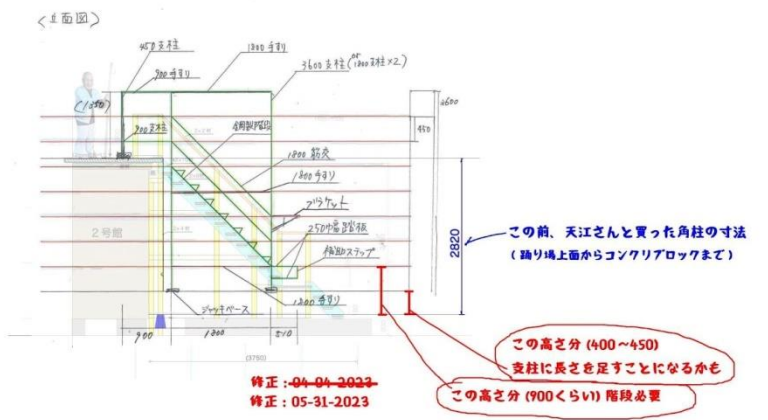


これまで伝えてきた人、これから伝えたい人の受け皿として、忘却に抗い続ける。

余白
関わる続けること



当事者だけでなく、誰もが関われる「場」とそれを受け入れる「人」が必要。




海辺の図書館 屋根にのぼろう PROJECT

かいだんラフ図面 03-25-2023

scale: 1/50



A group of people are gathered on a green metal roof. In the foreground, a hand holds a glass of dark beer with a thick head of foam. In the background, a man in a red shirt and glasses holds up a glass of beer, smiling. To his left, another man in a plaid shirt holds a glass of beer. Further back, a man in a purple shirt and a white face mask stands with his arms crossed. The roof is made of green corrugated metal with blue fasteners. The background shows a landscape with green bushes and a clear blue sky with scattered white clouds. Power lines are visible in the upper part of the frame.

ありがとうございました。
ぜひビールを飲みきてください！